

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川字子野950-25		
自己評価作成日	平成24年7月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500038-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所し4年目となりました。建物の作りは今まで認知症ケアを実践してきたノウハウを生かし、認知症の症状を少しでも緩和し利用者様が安心して生活できる環境を提供できるようになっていきます。また、スタッフに関しても、法人独自の研修を取組、『尊厳のあるその人らしい生活』を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。地域との交流も日頃行っており、利用者様が地域の方と交流ができる取り組みと地域の方に認知症という病気を理解して頂ける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に、20代の若い職員が多い。法人の事業運営を標準化し、それに基づいた基本方針や統一した研修制度を設けている。職員は、人生の先輩である利用者から学び、ホームで地域の住民と共に、人生の総仕上げの一役を担う姿勢で取り組んでいる。高齢化した地域で、地元の住民から若い職員の考えや行動が求められ、職員は地域に溶け込み、様々な地域活動にも積極的に参加している。「尊厳あるその人らしい穏やかな生活を」の、理念の実現に向け、家族と共に、利用者が日々笑顔を絶やすことなく、その人らしい生活ができるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念自体は「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」明確な目標を掲げ実践しているが、全ての職員が理念の意味を理解しそれに基づいて日々仕事を行なっているとはいえない。	地域と日々関わりながら「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を送るを理念とし、玄関、休憩室に掲示し、勤務前に確認している。職員会議や新人教育などで、理念の意義を学び、日々の支援に繋がるよう努力を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議は行なわれており、その他にも避難訓練や夏祭りなど、地域の方々との関わりを持てる行事を行なっているが、利用者様が地域の方々に関われる機会は少なく、事業所全体で日常的には交流を行なえてはいない。	高齢者が多い地域のため、ホーム職員の若いパワーが求められ、地域の草刈りなどにも積極的に参加している。地域と共催する様々な行事では、協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会や交流の場などを設けることが出来ておらず、地域の方々に関わる機会が少ないため活かし切れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を開いたときに、日々の生活の様子や行事の予定などを伝えるようにしている。地域の方々の意見を取り入れつつ、施設の質の向上を目指している。	運営推進会議は隔月に開催し、区長、民生委員、福祉推進委員、行政、家族が参加している。ホームの日常の様子を報告し、意見を交換している。サービスの向上に資する意見等には、速やかに対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは日頃から連絡を取るようにし、こちらからも取り組みなどをしっかり伝えるようにしている。介護相談員の訪問も定期的であり、意見を聴く機会もある。	市の介護相談員を受け入れ、利用者の視点に立った話し合いを継続している。日頃から、法律の改正や困難事例などで、相談し指導を得たり、連絡を密にしている。行政主催の研修会や会合に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、具体的な行為に関しては職員の理解は乏しい。どのような行為が身体拘束となるのか、その重要性を職員全体に広めていけるよう努めていきたい。	身体拘束ゼロのマニュアルを基に職員研修を行い、拘束のないケアに努めている。安全上やむを得ない状況があれば、その都度家族と対応を話し合っている。利用者の行動を束縛することなく、付き添うなど細やかな対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が高齢者の虐待について学ぶ機会を持つよう、研修に参加してもらうようにしている。研修を終えた職員を中心に、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフの育成が制度の教育をする段階まで進んでおらず、知識も持っていない。権利擁護やその他の制度の知識を持っていけるよう、基本的な認知症介護の職員としての知識をまずは付けられるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容、制度の説明等を行い、理解・納得していただける働きを行っている。又契約後も定期的に連絡を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会にみえた際に、意見や質問等がないかお聞きするようにはしている。ただ、直接聞くのではなかなかご家族の要望を聞き出すことはできず、運営に反映することも出来ていない。また、ご家族との関わりを持つようとしているスタッフも少ない。	家族の訪問時や電話で意見や要望を聞いている。家族には、遠慮があり、具体的な意見・要望を聞きだすまでには至っていない。	毎月「おたより」を発行し、利用者の生活、行事の連絡などを報告しているが、「おたより」に意見欄を設けるなど、家族が意見を外部に発信できるような工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見・提案を話し合う機会はないが、直接職員からの意見があった場合は反映させるようにしている。	職員の意見はミーティングで聞いている。職員の発想、責任、達成感など、意欲を高め、やりがいのもてる職場作り等を話し合っている。意見・提案は、速やかに運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力や人間性を把握し、その職員にあった業務を任せるようにしている。個々の努力や勤勉状況を認めそれに見合った地位を任せたり、行事等の責任者にして職員が仕事にやりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に見合った外部の研修を受けるように促している。内部研修は行なえていない状況なので、力量に合わせた指導をその都度行なうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部の施設と交流を持てる機会を作れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行い、ご本人様の気持ちやご要望の聞き取りを行っている。職員もご本人との関係づくりを積極的に行い、ご本人が話しやすい雰囲気を作り不安を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報は細かな部分も聞き取り、受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、問題点を見極め、担当ケアマネと連携をとりながら、他のサービス利用の可能性については情報交換を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な立場での介護が行なえるよう指導に努めているが、職員のほとんどが「介護する側」になってしまっており、暮らしを共にする同等の立場であるという認識は薄く、関係性も同等ではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全体の認識は甘いものの、ご本人様の現在のご様子などを細かく報告するようにし、また、ご家族がどのようなケアを望んでいるのか聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が今まで使っていた家具や食器を持ち込んで頂き、施設内で使用して頂いている。また、馴染みの場所や行動(通っていた美容室、ご家族のお見舞いなど)があるようなら、ご家族や他施設と連携を取りながら今まで通りの生活が出来る様に支援している。	美容院、病院、家族の行事などに家族と共に出かけることが多く、家族を通して馴染みの関係が保たれている。利用者の希望で墓参りや買い物に職員と一緒に出かけ、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全員が心地よく生活できるよう、席の配置には職員同士で話し合いながら気を配っている。職員が介入しすぎず、ありのままに生活をして頂くようにしているが、必要に応じて第三者として利用者同士の間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、利用者様の状況に合わせてご家族と連携を取るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が生活の上でどのようなことを求めているか、職員全体で常に考えるようにしているが、職員本位のケアになってしまうことがある。	利用者が安心して悩みや希望を話せる関係づくりをしている。家族、利用者から家庭での生活、好きなこと、嫌いなことなどを聞き取り、参考にしている。利用者の思いや意向は、職員間で共有し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からの情報も含め、ご本人の生活歴や環境の情報収集に努めている。入居後もご本人ご家族からの情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、「この人はここまでしか出来ない」と思ってしまうところがあり、できることまで奪ってしまっていることがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の表情や言動の原因把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。	日々の介護記録、表情、行動などを基に、介護計画を立案している。家族や利用者の意見、職員の意見、アイデアを計画に反映させている。状況に応じ随時変更や修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での連携が甘く、情報の共有は出来ていないことが多い。また、記録の記入も毎日同じような内容になってしまっているため、介護計画に生かすことが出来ていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の決まりに縛られてしまっており、柔軟な対応を行えていない。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアにも定期的に入っていたり、民生委員を通して、地域のお年寄りとの交流が持ていただけるような取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかっていた病院に受診を続けるか、事業所の協力医療機関にかかるかご家族に確認を行うようにし、適切な医療を受けられるようにしている。	契約時に掛かり付け医についての説明をしている。利用者がかかり付け医を継続する場合と、協力医に変更する場合もある。受診は、原則家族が同行し、対応している。緊急時や家族が同行できない場合は、職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の情報の共有や気づきが甘く、看護師と連携も取れていない。適切な医療が受けられるように努めてはいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状と今後の予測できる状態について、看護師やかかりつけ医と相談をし、早期退院に向けてできる限り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小さな変化でも医師に相談を行うようにし、施設内で速やかな対応を行なえるように病院と連携をとるようにしている。	契約時に重度化や、終末期について説明をしている。ホームの方針は医療が重点的に必要でない限り、終末期、看取りを支援している。場面に応じ、本人、家族、関係者で十分に相談し、対応している。重度化や終末期の具体的な対応指針や同意書の書式が整っていない。	重度化や終末期の方針について、関係者で共有できるように、具体的な書式作りに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受けるように促しているが、実際に受けている職員はほとんどおらず、身に付いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同での訓練と、施設独自の訓練を行い、災害発生時の対応は今後も強化していきたいと考えている。また、発電機も施設内に設備し、いざというときに地域でも使えるように備えている。	避難場所を公民館とし、独自の災害訓練を年2回行っている。地域の協力が得られ、家族も参加している。また、地域と合同、地域の訓練にも参加している。電動発電機も施設内に設置している。備蓄も完備し、点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報にかかわるもの(記録・データ等)については扱い方のルールを徹底し、スタッフに周知してもらうよう努めている。	理念に掲げた「尊厳」を重視し、人生の先輩、人格を尊重した会話や言葉遣いに、細心の配慮をしている。関係書類の取り扱い、ケアの場面においても、職員間で互いの気づきを話し合い、利用者に寄り添う対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の決め付けや、「きっとこうであろう」という考えを持たないように職員の教育には努めているが、現状では職員本位のケアになってしまっている部分があり、自己決定の働きかけができていないことがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールも大体の時間は決まっているものの、全員がそれに沿った毎日を送るのではなく、一人ひとりのペースを大切にケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容支援は手の行き届かないことに関しては職員で手を貸すようにはしているが、その方の好みの身だしなみが行なえるよう、服はご自分で選んでもらうなど、個人のおしゃれを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が嫌いなものに関してはそれを無理にでも食べて頂くのではなく、その方が食べたいものを食べただけ口にさせていただけるよう、その場に応じてその方にあったメニューに変更するようになっている。	ゆっくり食べる人、時間をずらす人、好き嫌いの激しい人、すべてを受け入れ、食事時間を限定することなく対応している。庭の野菜、近隣から届けられた新鮮な旬の野菜を食材にし、料理づくりを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、その都度記録に残すようにし、個人の食事・水分量を把握できるようにしている。また、一日を通じて確保できていない場合は声掛けを行い摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず行うようにしている。ご自分で歯磨きを行える方に関しては、ご自分でやって頂くようにしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄時のサインを見極めるように努めているが、現状では失敗の回数を減らすことはできていない。	排泄チェック表を利用し、サインを見逃さないケアで、さりげない声掛けと誘導を行い、ほぼ全員がトイレで排泄している。トイレで排泄する快感を利用者に感じてもらうケアに取り組み、パッド交換時には汚れた部分の洗浄などを行い、不快感のない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に関しては水分摂取を積極的に促したり、場合によっては医師や看護師と相談をし、薬を処方して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関してはその方の入浴の希望があれば、毎日入浴して頂くようにしている。また、入浴の時間もその方に合った時間帯に入って頂くように心掛けている。	週に2回、利用者の入浴を支援している。希望者には、夕方・朝等、様々な希望に沿った支援をしている。ゆっくり寛ぎ、入浴を楽しんでもらっている。入浴を好まない利用者には、職員の工夫でタイミングをずらしたり、気分転換などで、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけの睡眠時間を見るのではなく、昼間を通してご本人のペースにあった睡眠時間が取れているか確認をしながら支援をします。睡眠場所についても、その都度ご本人様の要望を確認し支援します。(居室・和室・テーブル等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を把握しており、服薬状況の確認は徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が楽しめることや生活の中での役割を見出すようにし、個人個人が喜びのある生活を送って頂けるよう職員同士で話し合うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方に関しては、要望があれば外を散歩を行うようにしている。しかし、普段外に行かない方も声掛けを行うようにし、外での気分転換を図るようにしているが支援しきれない。	「東家」が敷地内にあり、散歩中の利用者には、茶を楽しんでもらっている。日常は近隣を散歩し、花や季節の移り変わりを楽しんでいる。天候や健康状態を鑑み、外気浴を行っている。ゴミ出し、買い物などへも出かけている。車いすの利用者には、バルコニーで外気浴を楽しんでもらっている。	

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、こちらでお小遣い程度お金の管理はさせて頂き、定期的にご家族へ説明し、確認をさせて頂いています。希望があれば一緒に買い物に行く等対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状としては、手紙のやり取りをされる利用者様の支援を行っているが、電話等の希望が出た場合には対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を取り入れ、見当識の障害がある利用者にも楽しく季節を感じていただく工夫に努めている。空間についても利用者様の状況に合わせ生活用品の配置を変える工夫もしている。	共用の場は、明るく、広々としている。食卓のテーブルや椅子の配置を工夫し、食事後もゆっくりくつろぎ、会話ができるようにしている。洗面所には利用者毎の棚があり、日常使用する諸用品を清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではあるが、一人一人が安心できる場所や、一人になれる居場所の工夫を取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には使い慣れた物を持ち込んでいただくよう伝えていることと、その人らしい部屋作りに努めている。	利用者の住まいという考えから、木製の表札を掲げている。クローゼットを設置し、部屋を広く使う工夫がある。家族の写真、使い慣れたベッド、整理ダンスを設置し、居心地の良い居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ただ単純に張り紙をするのではなく、利用者のどの部分が障害を受けいているのかを見極め、その方にあった対応を心掛けている。		